

交通安全家庭新聞

2020年
冬

近年、交通事故は着実に減ってきているとはいえ、それでも昨年は約46万人が事故で負傷し、3,215人が亡くなっています。

今年、新型コロナウイルスの流行により、9月14日現在、国内で7万人以上が感染し、1,400人以上が亡くなっていますが、人命にとって交通事故はそれ以上の脅威であると改めて警戒し、家族みんなが笑顔でいられるように、今一度、交通安全の基本をしっかり学んで、一人ひとりが安全通行・安全運転を実践しましょう。



改めて事故にも警戒！

泉崎村交通安全対策協議会
泉崎村交通安全母の会

お酒を飲むと、安全運転に必要な心身機能は確実に低下…

飲酒運転みんなで根絶！

飲食店では ■運転する客には酒類を提供しない

●ドライバーが「飲んだら乗らない」を厳守するのは当然ですが、周りの人も、車を運転する予定がある人に酒をすすめたり、酒を飲んだ人に車を運転させてはなりません。

家庭では

- 家族の飲酒運転を黙認しない
- 車で家を訪ねてきた人に酒を提供しない

職場では

- 二日酔いなど、酒の影響が残っていないか、運転前にチェックする
- 酒の影響が残っている人には、絶対に運転させない
- 酒が出る会合などには車で行かせない



冬道では、街なかの「交差点・交差点付近」で事故が多発！

■冬の積雪・凍結路（冬道）は、いわゆる「スリップ事故」など、夏場にはない特有の事故が発生する危険がありますが、なかでも街なかの交差点や交差点付近は、非常に滑りやすいツルツル路面になっている場合が多く、それによる「追突」や「出会い頭」の事故が多発している危険な場所です。



◆交差点で停止するときは、早めにシフトダウンしてエンジンブレーキで減速し、最後にフットブレーキをソフトに踏むようにしましょう。



交差道路の車がスリップして交差点内に滑り込んでくることがありますので、交差車両の動向をしっかりと確かめてから交差点に進入しましょう。

大雪や吹雪で立ち往生したときは…

エンジンをかけた状態で車の排気口が雪に埋まると、車内に排気ガスが回り、中毒死する危険があります。

安全な場所に車を止め、防寒具を身につけてエンジンを切り、早めに救援を要請しましょう。暖を取るときは時々エンジンをかけ、風下の窓を少し開けて換気しましょう。このとき、雪で排気口が埋まらないよう、排気口の周りをこまめに除雪しましょう。

【年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動】

■期 間 令和2年12月10日(木)から令和3年1月7日(木)までの29日間

■運動のスローガン ハイビーム こまめに活用 事故防止

■年間スローガン みんながね ルール守れば ほら笑顔

- 運動の重点
- (1)道路横断中の交通事故防止
 - (2)高齢者の交通事故防止
 - (3)夕暮れ時や夜間の交通事故防止(特に、夜光反射材用品等の活用の推進)
 - (4)全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 - (5)飲酒運転の根絶と飲酒が関与する交通事故の防止



自転車利用者の交通安全の極意!

- 夕暮れ時や夜間、「ライトを点灯しなくともちゃんと見えているから」と無灯火で通行しているから、車のドライバーに見落とされて事故に遭う危険があります。
- 自転車のライトは、自分の進路を見やすくするためだけでなく、他の車(者)に自転車の存在をアピールするためのものもありますので、暗くなつてきたら必ずライトを点灯しましょう。

その式
必ずライトを点灯して目立つべし。



- 特に住宅地の信号がない交差点では、近くに住む自転車利用者が「いつも車はこないから…」と油断して、一時停止や安全確認を怠っていきなり交差点に進入し、**道路の車と出会い頭に衝突**する事故が多発しています。
- 信号がない交差点を通行するときは、急いでいても一時停止をして、交差道路から車がきていないか確かめましょう。

その毫
信号がない交差点では、一時停止をして安全を確かめるべし。



ドライバーの交通安全の極意!

- 夜間、先行車や対向車がないときは、ヘッドライトを上向き(ハイビーム)に切り替え、できるだけ広い範囲を照らし、道路を通行している歩行者や自転車を早め早めに発見しましょう。
- 住宅地の道路を通行中、歩行者や自転車がほとんどおらず閑散としているときは、つい油断して安全確認がおろそかになり、**歩行者など**の発見が遅れて衝突する危険があります。

その式
夜間は、こまめにライトを上向きにして視界を確保すべし。

- いつもの通り慣れている住宅地の道路ほど、「歩行者や自転車がいきなり道路を渡ってくるかも…」と警戒し、道路脇のあちこちに目配りしながら通行しましょう。



その毫
住宅地の道路では、歩行者や自転車の早期発見に努めるべし。



歩行者事故

自転車事故

危険を回避する 交通安全の極意!

冬に多発している典型的な歩行者事故・自転車事故のパターンと、その事故を防ぐための安全通行・安全運転のポイントをまとめました。

歩行者の交通安全の極意!

- 職場や学校からの帰宅時には暗くなるこの時期、**夕暮れ時や夜間、道路を渡つているときに車と衝突**する事故が多発しています。
- 夕暮れ時や夜間、車のドライバーからは歩行者がよく見えていません。道路を渡るときにしっかりと安全を確かめるのはもちろんのこと、歩行者の存在をドライバーにアピールするため、衣服や持ち物に反射材をつけましょう。



その式
夕暮れ時や夜間は、反射材を着用して目立つべし。



その毫
自宅近くの通り慣れた道路ほど、安全確認を徹底すべし。

事故時に後部座席乗員が前席乗員を押しつぶす!



車に乗つたら、すべての座席でシートベルト着用!

なぜなら
非着用だと…

◎非着用者が事故で死亡する確率は、着用者に比べて、運転者で約60倍、助手席同乗者で10倍以上、後部座席同乗者でも3倍以上になっています。